

私たちは、ヨーロッパの伝統的なビール文化を尊重し、手づくりの本格ビールを通して、ビールにも選ぶ楽しみを提案します。食卓がもっと豊かに、ハッピーなものになるよう、地元岩手よりビール文化を発信していきます。

ベアレン醸造所スタッフ一同



ファンとともに

寫田 洋一 | 代表取締役社長

4月から新年度、会社として新しい年のスタートです。今年のベアレンのテーマは「ファンとともに」です。

ベアレンビールは、地域に愛されるクラフトビールとして全国ナンバー1だと自負しています。自社調べではありませんが、岩手県民に「おすすめのお酒」を聞いたところ、歴史ある地元の清酒やワインを

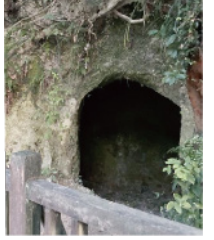
おさえ、ベアレンビールが最も高い支持をいただいています。さらに、ベアレンに対して約8割の方が好感を抱いているという結果も出ました。これらのベアレンになってきているのは、まさに創業以来大事にしてきたファンの皆さまとの世界観づくりにほかなりません。

私たちが価値を見出し、作り上げてきたビールの味わいへの共感や、地域密着・地域活性化の取り組みへの共感、さらにはさまざまなイベント空間への共感など、その理由は実に多様だと感じています。それらすべてはベアレンにあるのはスタッフが思い描く「こんなあったらいいな」という価値への共感だと感じています。

今年、ベアレンはビールを造り始めて23年を迎えます。これまでに積み重ね

リレーエッセイ

寫田 洋一 | 代表取締役社長



5回目のリレーエッセイ、今回は歴史が好き、というテーマで書きたいと思います。学生時代に読んだ、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」をきっかけにしてご多分に漏れず、多感な学生時代、幕末維新の熱気あふれる時代に魅了され、様々な本を読みました。昨年、初めて鹿児島に行く機会がありました。あまり時間がなかったのですが市内の西郷ゆかりの地などを走って回りました。西郷隆盛終焉の地では、最後の晩にこもっていた洞窟をいつまでも眺め、彼がここにいる時の景色を想像し、思いをはせました。そこから終焉の地と言われる場所の想像以上の近さに驚き、どんな思い

でこの距離を走ったのだろうかと考えると時間の経つのを忘れました。歴史の好きなところは時間の経過でなっていく、その余韻を少しでも感じられるところです。いわゆるロマンでしょうか。仮にこの西郷洞窟に何の伝来もなければ、ただの薄暗い洞窟でしかありません。しかし、そこに西南戦争の末期、西郷ら一隊が立てこもり最後の一夜を過ごしたという話があるからこそ、その場所に意味が生じるのだと思います。お酒も同様です。何のストーリーもなければ、ただの到酔飲料です。しかし、そこにストーリーがあることによって、そのお酒が食卓を彩る豊かな飲み物になるのだと思います。私がお酒に魅了されているのもそんなストーリーによってなのかと思っています。



来月は、見かけによらず？ 朴訥とした頑張り屋、駅前店の前川くんにはリレーします！

今月の新製品

菅原 奈々 | 総務部

春だ！縁だ！マイボックだ！...ということで、今月は春の訪れを告げる「マイボック」のご紹介です。ドイツ発祥のマイボック、「マイ」はドイツ語で「5月」、ボックは度数のや高いコクのあるスタイルのことを指します。冬の間の熟成を経て美味しくなることから、ドイツでは春の訪れを告げる5月のビールとして親しまれているんですよ。また、春の息吹を感じさせるイメージから伝統的に緑色のラベルが多いそうです！麦芽のコクや旨みを濃厚に感じられる、どっしりとした味わいになっています。春にしか飲めない贅沢な味わいをぜひお楽しみください！



各アカウント一覧はこちら↓

編集後記

都鳥 勇介 | 総務部

新年度がスタートし、街にも少しずつ春の彩りが広がってきました。慌ただしい毎日の中にも、新しい風を感じる季節です。環境が変わる方もそうでない方も、それぞれのペースで良いスタートが切れますように。そんな日々の中に、ベアレンの一杯がそっと寄り添えたらうれしいです。

今月の一挙



東日本大震災の復興事業にお役立ていただくため、昨年発売した「オランダ島ビール」の売上の一部を岩手県山田町へ寄付いたしました。ご購入いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

三陸鉄道ベアレン飲み放題列車

山本 智也 | 営業部直販課



先日開催いたしました「ベアレン×三陸鉄道 飲み放題列車」は、おかげさまで発売早々に満席となり、当日は最高の熱気の中で運行することができました。ご乗車いただいた皆さま、そして遠方からエールを送ってくくださった皆さまに、心より御礼申し上げます。

車窓には吸い込まれるような三陸の青い海が広がりました。レトロな車両特有の振動に身を任せ、程よく冷えたベアレンビールで乾杯する。その一杯は、景色や空気と結びついた「旅」という特別な味わいで、より深く記憶に残るものとなりました。何より印象的だったのは、車内を包んでいた一体感です。限られた空間だからこそ、初対面のお客さま同士でも自然と会話が弾み、笑い声が列車の音に重なっていく。ビールが人と人を繋ぎ、同じ時間を共有するきっかけになることを、私たちスタッフも改めて強く実感いたしました。

また、岩手の誇るべき「三陸鉄道」さまと共にこの時間を創り上げられたことは、地域に根ざした企業として非常に大きな意味を持ちます。三鉄のレトロ車両が風景の中を走り、車内でビールが注がれる光景は、私たち

のあり方を象徴するものでした。ビールを造るだけでなく、その背景にある土地や人の魅力を伝え、触れていただく機会をつくります。それがベアレンの果たすべき役割の一つであると思います。改めて感じています。皆さまの温かいお言葉とご協力のおかげで、無事に到着駅まで走り抜けることができました。心より感謝申し上げます。

今回の体験は、ベアレンがこれから提供していく価値や方向性を示す大切な機会となりました。ビールがあることで生まれる感動の積み重ねが、これからの私たちをより強くしていくと信じています。次はどんな景色の中で皆さまと乾杯できるでしょうか。その一杯が新たな思い出になるように、これからも皆さまと楽しいをつくり続けてまいります。引き続き、ベアレン醸造所をどうぞよろしくお願いいたします。

レストラン便り

今野 克伸 | 菜園マイクロブルワリー

こんにちは、菜園マイクロブルワリーの今野です。花粉が舞い始め、少しずつ春の気配を感じる季節となりました。

前回に続き恐縮ですが、今回もビール会のお届けします。というものは、先日のビール会には特別なゲストをお迎えすることができました。テーマは「ミッケラー特集」。デンマーク発の世界的に知られるブルワリーで、もともとは自社設備を持たない「ファントムブルワリー」としてスタートし、現在は自社醸造やレストランも展開しています。ベアレンでも毎年コラボしているウィーンラガーは、多くのファンに親しまれている一杯です。今回はそのミッケラージャパン代表のハミルトンさんが、ここ盛岡の菜園ビール会に足を運んでくださいました。流ちょうな日本語で、お客さまとビールの話はもちろん、日常の話題まで気さくに交流されている姿



ミッケラージャパン代表
ハミルトンさん

が印象的でした。共通の話題があることで、場の空気が自然とほぐれていくのを感じます。当日はコラボビールのウィーンラガーを皮切りに、新作を含む多彩なラインナップを料理とともに楽しんでいただきました。じゃけん大会やお土産のプレゼントもあり、会場は終始和やかな雰囲気にもまれていました。カウンターの越しにその光景を見ながら、ビールには国や言葉を越えて人をつなぐ力があると、改めて実感しました。こうした時間を共有できたことは、私たちにとっても大切な経験です。今後もこの場を通じて、ビールの魅力を伝えていきたいと思えます。

わたしとベアレン

【記事募集中】

読者投稿企画「わたしとベアレン」の記事を募集しています！この企画は、ベアレンをより身近に感じていただけるよう、皆さまから寄せいただいたエピソードを記事にして紹介するコーナーです。例えば：

- ・初めて飲んだベアレンビール
- ・旅行先やイベントで出会ったベアレン
- ・ベアレンを通じて広がった、仲間との交流
- ・など、どんな小さなエピソードも大歓迎です！

投稿方法は記事中のQRコードから「お名前」「メールアドレス」「電話番号」「投稿記事(300文字程度)」をご入力ください。記事として採用された方には『ベアレンビール3本セット』をプレゼントいたします。ぜひ、お気軽にご参加くださいませ。皆さまからの素敵なエピソードをお待ちしています。



↑応募はこちら

笑熊会活動報告

都鳥 勇介 | 総務部

4月より笑熊会は新体制となり、あらためてその活動の目的と取り組みについてご紹介いたします。笑熊会は、スタッフ同士の交流を深め、日々の業務をより円滑に進めていくことを目的に活動しています。ビール

を楽しみながら気軽に語り合う時間を大切にし、部署や立場を越えたコミュニケーションの促進につなげていきます。日常の何気ない会話から新たな気づきや連携が生まれることも多く、業務面での相互理解の向上にも寄与しています。主な活動のひとつとして、春と秋の年2回、スタッフの家族も参加する「家族会」を実施しています。スタッフの新たな一面を知る機会となるだけでなく、家族同士の交流の場としても好評をいただいています。子ども達も楽しめる内容を取り入れ、幅広い世代が安心して参加で

きる場づくりを心がけています。また、スタッフの誕生日にはケーキをプレゼントし、朝礼の場で全員で「ハッピーバースデー」を歌ってお祝いしています。日常の中のささやかなひとときではありますが、こうした積み重ねが職場の温かい雰囲気づくりにつながっています。今後も笑顔あふれる交流の場を通じて、より良い職場環境づくりに取り組んでまいります。

